



森ボラ 通信

第98号 2010年7月20日発行
NPO法人北海道森林ボランティア協会
URL <http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>
札幌市豊平区平岸1条1丁目9-6 ラルズビル3F
Tel(fax.): (011)816 - 7010
E-mail : hshinrin2002@nifty.com

■ トピックス

◆ リュバン・ド・ヌールさくら植樹祭と森づくり

6月29日(火) 参加17名。この時期としては異例の猛暑の中、リュバン・ド・ヌールの会員7名の参加のもと「さくら」20本の植栽を行いました。

樹高3mの根巻苗というより植栽木なので、植え穴も大きく下準備の穴掘りも地盤が石だらけで悪くて苦勞しました。真夏日での植栽なので葉もぎは思いっきりやり、灌水当番を決めて、活着するまで継続することにしました。

看板はホンデュラスのランセティア植物園で土産としていただいたマホガニー斜輪切り材です。構想は酒井、デザイン山中、彫りと塗りは和田の共作です。

(15日の活動日時点では、全木が着床して、芽先がしゃっきりしていました。)

作業終了後は場所を「紅桜公園」に移し交流会を行いました。大汗を流した後のビールの味は格別でした。

今後は、新たにリュバンの森をつくろうとの合意を整えて、場所の選定や規模の検討等の準備に入ることになります。(記 高野)



◆ 羊ヶ丘実験林観察会 6月21日午後 (参加者 8名)

羊ヶ丘実験林は森林総研究所北海道支所の研究林(174ha)で、当協会では6~7年前に、針葉樹林の間伐とか森林のCO₂吸収量算出のため木の葉の枚数測定等で協力をしたこともありましたが、この4~5年は疎遠になっていました。最近、総研が実験林を一般に開放しようとして検討しているところに、3月のセミナーで総研の八巻先生に「市民参加による森林管理を考える」をテーマに講演をして頂いた関係で、当協会と意見交換会を持つようになり、手始めに実験林の観察会を行うことにしました。

当日、雨模様のなか、川路所長をはじめ平川氏、八巻氏にご案内して頂きました。まず、最初に感動したことは、森が再生するには長い年月が掛かるといわれていますが、総研が羊ヶ丘に設立されてから36年、継続的な管理により立派な森が形成されていることであります。次に、所長の専門である鳥の巣(メジロ、ヤブサメ、アオジ、ヒヨドリ)を、広い森の中で鳥によってはササの中にあるいは地面に、これが巣ですよといわれてもなかなか識別できない所に、普段の注意深い観察により見つけ出していることであります。一方で、すでに試験が終了と思われる人工林は、手入れが行き届かず密生した線香林になっているのには失望しました。また、心無い侵入者に、山菜取りは北海道の文化(?)とはいえ、土壌のCO₂吸収量測定チャンパーや小鳥の巣を踏み荒らされ研究が台無しになっていることには心を痛めました。

総研では北方系森林の自然力を高度に活用した管理技術の確立を目標に研究されていますが、森林の研究は結果が出るまでに時間がかかり、見た目には何を研究しているのか経過も結果も分かりづらいものです。それを一般に開放するには、素人にどう説明し理解し協力して頂けるか、常日頃の啓蒙活動がいかにか大事であるか認識した観察会でもありました。

総研には、標本館、樹木園、生きた教材が沢山そろっています。我々もおおいに利用させて頂こうではありませんか。ご案内して頂きました総研の皆さん有難うございました。(記 和田)

◆ お久しぶりです紋別岳

かねて計画していた紋別岳登山に参加しました。いつも私たちの作業を見守っている山頂は、今日は中腹より上は雲の中です。疲れてもいたので二の足を踏みましたが、参加者は10名もおり（しかも4人の女性は全員です）、刺激を受け参加を決めました。

私にとって、紋別岳山頂のNTT「支笏無線中継所」は、札幌から巡回保守する立場にあるなど縁は深く、32年ぶりに再会することになったのです。

当時の紋別岳は、東京～札幌間をマイクロウェーブによる市外電話回線や、テレビ中継線の大動脈が通過する最重要無人中継所の一つでした。従って、山頂に至る4.85Kmの専用道路はすべて舗装しており、通年除雪して車（冬は雪上車）で24時間駆けつける体制が整っていたのです。過激派グループによる破壊活動で騒がれていたころ毎週のように巡回したこと、交代で山上に寝泊りし監視を続けたことなどを思い出します。数えたことはありませんが100回ぐらい登ったような気がします。しかし歩いて登った記憶はないのです。そういうわけで、今回は初登頂と言えるかもしれません。

午前中に汗を流してから登山だから、予期したとおりにスタートから足は重いものでした。ゲートからほぼ中間地点（避難小屋跡）までは、支笏湖特有のカルデラ壁を登ることになるため急斜面が続き、しばしば立ち止まることが多くなりました。そのため仲間たちはどんどん先に進み、やがて姿は見えなくなってしまったのです。年齢差がはっきり現れたのは当然の結果と言えるかもしれません。

外輪山に出ると緩斜面が続き見通しはよくなるはずですが、雲の中で視界はゼロに近い状態でした。現役時代の想いに耽りながら、坦々と重い足を運んでいるうちに雲の中から建物が飛び込んできました。頂上の建物は携帯電話会社（ドコモ）に売却され（道路も含めて）、ケータイ電話回線の中継基地に変身しており、古い鉄塔が当時の面影をかるうじて残しているに過ぎません。内部の通信設備も、より高信頼度化され年に1～2度のメンテナンスで済むといえます。

頂上からの360°のパノラマは天下一品といわれますが、あいにくの真っ白い雲の世界で視界の開ける気配ありません。このような状況の中で登頂の証拠写真を撮りました。

やがて、われ等のボランティアの聖地（コンサの森やCGCの森）を、展望できなかつた未練を残しながら下山の途についたのです。道中、伊藤温泉の露天風呂やビールの泡をしきりに脳裏にちらつかせながら、無事湖畔に着いたのは15時ごろだったでしょうか。

万歩計は「20500」を指していました。（記 吉本）

◆ 7月14日幌南の森 7月15日澄川

●14日は藻岩山幌南の森で幌南小の先生方PTAの方たちと遊歩道の草刈り、延長遊歩道の刈り出しをしました。新遊歩道沿いに川の源流を発見しました。

幌南の森は共生の森であるとともに水源涵養の森でもあります。大事に保全活動を続けましょう。

●15日は澄川の以前からある小屋がつぶれそうになり改築の為ビオトープの移転をしました。先生から下記のような礼状が届きました。（記 酒井）



ボランティアの皆様にも手伝っていただき、貴重なカブトムシの幼虫を分けていただき、ありがとうございました。現在、二つの飼育ケースに入れて、理科室前の棚に置いています。いつもは廊下を通り過ぎる子どもたちも、今日は足を止めて「何だろう？」という表情でながめていました。もう少ししたら、外の小屋に移そうと思います。皆様にもよろしくお伝えください。とりあえず、お礼まで。（幌南小 村上）

■ 今月の 幹事会

7月12日(月)

出席者：市山・荻田・酒井・佐野、杉本・高野・津金・釣井・西野・山中・矢澤・和田（12名）

審議・決議事項

- ①活動スケジュールの日程、内容の微調整。
- ②活動交通費の支払いは半期毎に資金の見通しのもとに行う。
- ③個人使用の腰ノコの替え刃を年に1回、活動多参加者に対し上限3000円までで補助する(要領収書)。
- ④牛皮製作業手袋を支給する。
- ⑤納涼会実施(4ページに記載)

■ スペシャル

◆第6回石狩管内森林ボランティア交流会に参加して《雑感》

(7月10日(日)・当番幹事いしかり森林ボランティア「クマゲラ」)

第6回を迎えた2010年度・石狩管内森林ボランティア交流会は活動地の石狩市庁舎に集合、大型バスで活動地に移動、活動状況2ヶ所(市有林13林班28小班・厚田区「千年の森」)を見学させていただいた。

生憎の曇り空と高湿度でしたが、途中では薄日もさす等、雨に当たらず全日程が終えました。会員一丸となった運営の姿を見て、良好な会の活動が見て取れました。「クマゲラ」皆さん、ありがとうございました。

「クマゲラ」「森ボラ」の2団体でスタートしたボランティア交流会も、今回は、厚田の森支援の会「やまどり」が新規参加となり6団体の大所帯となった。

森林ボランティア活動が抱える課題・情報の共有化を図り、目の前の森林荒廃の保護・育成をボランティアの力で糺そうとの思いで進められた。今回の交流会は、道および市庁の方々半数を超える勢いで参加されていたのには驚いた。こんなに興味があればボランティアの力は要らないのではなかろうか。

各ボランティア団体の事情もあろうかと思うが、ボランティア活動本来の姿に戻り、行政の怠慢を糺し、市民の側からの視点で活力ある、安全で生きがいのある活動に徹したボランティアの姿が見えない交流会だったのが残念である。

今回、タイトルに「石狩振興局管内森林ボランティア交流会」とありましたが、「石狩管内森林ボランティア交流会」の間違いであり、新設された交流会旗(?※)に付随されるリボンの名称も同様、訂正が必要と思う。次回の交流会でこれらの議論をしておいてはいいでしょうか。(記、西野)

- ※ 緑地に白十字のA0版サイズの会旗、交流会毎に当番幹事名がリボンで付加される。旗には名称がないため、リボンで「石狩管内森林ボランティア交流会」の名称も付加される。



「千年の森」中央部の物見台



モミジバフウの毛虫(クスサン)???



■ 活動履歴

活動日	行 事	参加人数	活動内容
7月 16日(金)	当別青山	4名	ヤナギ植地の草刈
7月 15日(木)	澄川	10名	ビオトープ移設、物置拡張
7月 14日(水)	藻岩山幌南の森	7名	草刈
7月 10日(土)	石狩	3名	森林ボランティア交流会
7月 8日(木)	澄川	8名	草刈、物置拡張
7月 6日(火)	支笏湖 CGC	16名	草刈
7月 5日(月)	支笏湖 CGC	16名	草刈
7月 2日(金)	澄川	11名	さくら灌水、物置拡張、クズ退治
7月 1日(木)	澄川	2名	さくら灌水
6月 30日(水)	支笏湖	6名	草刈
6月 29日(火)	澄川	17名	サクラ植栽
6月 28日(木)	西野第二	7名	ニセアカシヤ萌芽刈
6月 26日(土)	澄川	14名	物置拡張
6月 21日(月)	澄川	13名	午後、羊ヶ丘実験林観察会

リンゴ園：6/18⑤、19④、23⑥、24⑤、7/1③、2③、3④、7④、9⑤、13⑥、14②、15①

■ おしらせ

◆ 納涼会をやりましょう

8月9日(月) 17時より、大通ビヤガーデンで納涼会を行います。参加希望者は現地に直接おいでください。場所は恒例の西6丁目大ケヤキの下。今年はアサヒビールです。会費は現場でのワリカンです。

■ ひとこま

◆ 澄川のヤマシャクヤク

澄川の豊かさを象徴する場面です。清楚なヤマシャクヤクの写真が届きました。6月9日の活動日の景色です。分布は全国区ですが、群生はしなくて、林内で密やかにしている印象です。しばしば出遭うわけでもなく、それだけに出会いが嬉しいのです。(記 高野)



◆ コヒオドシに出会いました



7月14日 幌南の森活動日。リフト最上部の駐車位置の路面に憩うコヒオドシの映像をゲットしました。北海道の蝶トランプの原画を描きながら、一度は出遭いたい蝶の一头だったのです。トランプでは♥7に位置しています。(記 高野)

◆ 当別の毛虫 (カシワマイマイ?)

7月16日、当別のオイスカ植樹地の植栽ブナの葉にとりついてマイマイガの幼虫たちが葉を食べ尽していました。なかに明らかにマイマイガと違う形の幼虫がいました。右の写真がそれですが、頭に角状の束毛があります。行動もマイマイガより敏捷でした。

いろいろ調べました。カシワマイマイというのがどうやらそれらしいのです。食草はカシワ、クヌギ、コナラ、クリ、リンゴと結構幅が広いのです。近くのミズナラの幼樹の葉も裸にされていましたから、マイマイと同じ所にいたことでもあり、カシワマイマイとしておきます。(記 高野)

